

子どもの可能性を伸ばす特別支援教育の推進

岩手県は今年度、新しい「いわて特別支援教育推進プラン（2019～2023）」を策定しました。これまでの「つなぐ」「いかす」「支える」の3つのキーワードによる施策の基本的方向性を継承しつつ、本県の特別支援教育の基本理念である「共に学び、共に育つ教育」のさらなる推進につなげていく5年間のプランです。

また、学校教育指導指針（2019年度）の中でも学校教育の重点の1つとして「障がいのある幼児児童生徒の教育的ニーズに応じた指導・支援体制の充実に取り組む」ことを掲げ、以下の4点を取組の方向性として示しています。

- | | | | |
|-----------------------|--------------------|------------------------|-------------|
| ①就学前から卒業後までの一貫した支援の充実 | ②特別支援教育の多様なニーズへの対応 | ③県民と協働した特別支援教育体制づくりの推進 | ④教職員の専門性の向上 |
|-----------------------|--------------------|------------------------|-------------|

特別支援教育ステップアップ研修 I（岩谷堂小学校 R1.6.7）

今年度、初めて特別支援教育担当になった先生方が対象の研修でした。初めに岩谷堂小学校の「自閉症・情緒障がい学級」「LD 等通級指導教室」「言語通級指導教室」の授業を参観しました。岩谷堂小の先生方が様々な状況の障がい児に対し、個別の指導計画に基づきねらいを明確にした授業が展開されました。これにより、どの子ども学習課題を達成するために、一生懸命そしていきいきと活動する姿がたくさん見られました。



一人一人に語りかけ、個に応じた指導をする
柴山先生

『個々の教育的ニーズに応じた特別的教育課程に基づく指導・支援について』 (佐々木祐子特別支援教育エリアコーディネーター)

- 目の前の児童生徒が学校を卒業した後の「生活の自立」ができることを最大の目標として、教育課程を編成しなければならないこと
- ※「自立」とは、分別をもって頼るべきときに、多くの人に、少しずつ頼っていくこと
- 各障がいに応じた「教育課程」の具体について
- 交流及び共同学習のねらいの明確化と積極的な推進について



水沢南中学校指導教諭 菊池義仁先生には、コーディネーターの役割と実際について講義していただきました。

特別支援教育コーディネーター研修会（東山地域交流センター R1.7.1）

各校で特別支援教育を推進している先生方を対象とした希望研修でしたが、30名以上の先生方の参加がありました。本研修の主なテーマ「校内外との連携」について、講義・演習を通して学ぶことができました。

『連携や引継による支援体制の在り方』 (佐々木祐子特別支援教育エリアコーディネーター)

- 連携が必要な関係機関を知ること
- 縦の連携（ライフステージをつなぐ）と横の連携（各ステージの支援）を大切にする
- 関係機関と連携する際、相手方に支援だけを求めず、学校としてできることを明確に示すこと
- 子どもの将来を見据えた支援・連携を意識すること

『事例紹介（長期入院した児童への対応）』 (花泉小学校教諭 井上美由紀 先生)

- 保護者には常に配慮ある言動を心がけることや学校と常につながっているという安心感を与えること
- 入院先での支援会議の開催や他の児童・保護者への説明を検討すること（理解啓発）
- 学校復帰に向けた環境整備に努めること
- 復帰後の段階的な支援（本人、保護者）を継続すること

参会者の感想

- 就学時のみだけでなく、アフターケアを継続すること、支援に厚みをもたせることなど、今後の推進に役立つ内容だった。
- 連携するには、各機関の役割を理解することが重要だと感じた。関係機関の一覧表をいただきありがたかった。
- 演習を通して、連携の具体的な動きが分かった。



井上先生には、外部機関や保護者連携について講義していただきました。